

災害ごとの 支援のポイント



地震編



津波編



洪水編



土砂災害編

平成27年（2015年）3月

川崎市総務局危機管理室



目 次

1. 災害時要援護者避難支援制度の概要 (P1)

2. 災害の種類に応じた支援の流れ (P5)

地震のときの要援護者への支援の流れ…………… (P6)

風水害のときの要援護者への支援の流れ…………… (P8)

3. 状況に応じた支援の例 (P10)

地震編 (P11)

歩行が困難な方の避難の場合には …………… (P12)

視覚障がいの方の避難の場合には …………… (P13)

聴覚障がいの方の避難の場合には …………… (P14)

ご高齢の方の避難の場合には …………… (P15)

高層住宅に居住する方の避難は …………… (P16)

家やご自身に被害のない方の場合 …………… (P17)

安否不明の要援護者の確認を …………… (P18)

津波編 (P19)

歩行困難な方を津波から守る場合 …………… (P20)

堅牢な建物の上階に避難する場合 …………… (P21)

洪水編 (P22)

歩行困難な方を洪水から守る場合 …………… (P23)

浸水に備え建物の上階に避難する …………… (P24)

土砂災害編 (P25)

避難準備情報が発令された場合には …………… (P26)

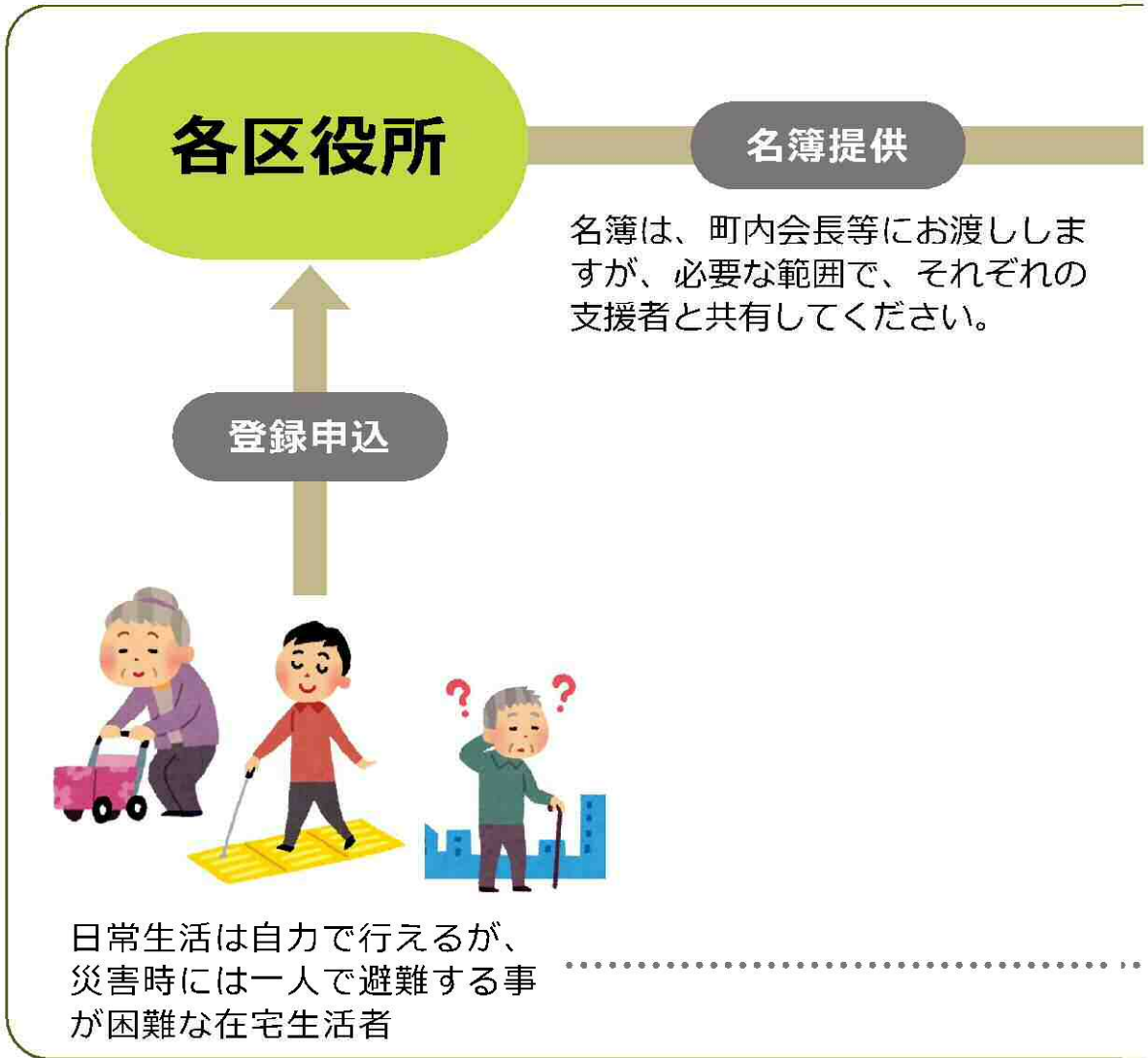
支援の連絡を受けて安心することも …………… (P27)

災害時要援護者避難支援制度の概要

- 川崎市では平成19年（2007年）12月から「**災害時要援護者避難支援制度**」を実施しています。
- この制度は、災害時に一人で避難できない高齢者や障がい者の方を、地域にお住いの皆さんで支援する**共助**の取組です。

災害時要援護者避

平常時



災害時

まずは自分の身の安全

災害時、まずはご自身とご家族の身の安全の確保が大切です。

要援護者の避難支援は無理せずに可能な範囲で行います。



近

災害時の支
な事も多いの
なるべく周囲
方と協力して
行いましょう

難支援制度の概要

支援組織

町内会・自治会、自主防災組織、
民生委員児童委員



初回訪問

- 名簿が提供されたら、なるべく複数で要援護者を訪問し、身体等の状況を確認して、必要な支援内容や方法を話し合しましょう。
- 支援内容や方法は、名簿に書き込むなど、支援者と要援護者で共有しておきましょう。

見守り

- 平常時には、気軽に声を掛けたり、行事に誘うなど、顔の見える関係を作ります。

災害時要援護者

災害時要援護者は、町内会の活動に協力するなど、日頃から地域の方と交流しましょう。

所の協力

援活動は、一人では困難で、の。



的確な状況判断

被災状況によっては、必ずしも避難所に行く必要はありません。

要援護者が**自宅等に留まることが安全な場合もあります**ので、状況に応じて判断しましょう。



災害の種類に応じた支援の流れ

- 発生の予測が困難な地震と、予測がある程度可能な風水害とでは、**支援の方法は異なります。**
- このため、地震・風水害それぞれの支援について、まずは**大まかな支援の流れ**を確認しましょう。
- いざという時に備えて、要援護者の方と連絡手段や支援内容を確認しておきましょう。

—— 地震のときの要援

地震発生 (震度 5 強)

- まずはご自身とご家族の身の安全を確保
- 震度が 5 弱以下であっても、周辺状況に



ポイント … 自宅が被害を受けている、周囲で火災が発生している

1 要援護者の安否確認を行う。

- 電話での連絡が可能な場合は要援護者の
- 連絡の取れない方には直接訪問するなど



ポイント … 要援護者とは、事前の話し合いを通じて適切な安否確認して地域で協力するなど、柔軟に安否確認を行いま

2 要援護者の避難支援を行う。

- 支援を必要としている要援護者の**避難支**
 - 要援護者宅に損傷がなく、自宅避難が可能
 - 支援者 1 名での対応が可能な方には、歩行
 - 複数の支援者による対応が必要な要援護者

護者への支援の流れ

以上)



し、安全を確認次第、支援を開始します。
より必要があれば支援を行います。

、津波到達まで時間がない等の事情があれば無理はしないでください。

安否確認を行います。

し、安否確認を行います。



認方法を決めておき、被害の状況に
す。



援を行います。

な場合には自宅に留まるよう促します。

補助などによる避難支援を行います。

には地域で協力して避難支援を行います。



—— 風水害のときの要援

1 注意報や警報などの気象情報が

- 状況に応じて電話で連絡が可能な要援護
- 連絡の取れない方には直接訪問するなど



ポイント … 支援組織の方は今後の避難の見込等を要援護者に伝え

2 避難準備情報が発令されたとき

- 電話で連絡が可能な要援護者に対し、避
→ 自力歩行可能な方や、ご近所・家族の避
- 避難支援が必要な要援護者を訪問し、**避**
→ 支援者 1 名での対応が可能な要援護者に
→ 複数の支援者による対応が必要な要援護



ポイント … 支援組織の方は要援護者の方に避難の連絡や安否確認

3 避難勧告や避難指示が発令され

- 支援組織の方も**避難を開始**します。
- **可能であれば避難が遅れている要援護者**



ポイント … 避難所に行くことが困難な場合は、建物の 2 階以上で

護者への支援の流れ ——

発表されたとき

者への**連絡**を行います。

、危険が高まっていることを伝えます。



るため、初回訪問時に決めた方法などの適切な方法で連絡を試みます。

難を促す連絡を行います。

難支援を受けられる方は避難を開始します。

難支援を行います。

は歩行補助などによる避難支援を行います。

者には地域で協力して避難支援を行います。



！ を行うとともに、必要に応じて避難支援を行います。

たとき

の避難支援を行います。

崖から遠い部屋への避難（垂直避難）を行います。



状況に応じた支援の例

- 要援護者への支援の方法は、**災害の種類**だけでなく、**要援護者の身体状況、居住環境など**により様々です。
- ここでは、いくつかのケースを設定し、それぞれに対する**支援の例**を紹介します。

状況に応じた支援の例

地震編

支援にあたっての注意事項

- 震度5弱以下の場合でも、**被害状況に応じて支援を検討**してください。
- 家屋に被害がある場合は、二次災害のおそれがあるため、**可能な範囲で活動**します。
- 要援護者の救出・救助が必要となった場合には、ご自身の安全を第一に考え、**周辺の方々と協力**し、可能な範囲で行ってください。困難な場合は、無理せず消防や警察に連絡してください。
- 安否確認や避難支援の方法は、事前に要援護者と話し合っておきましょう。





歩行が困難な方の避難の場合には

➡ 一人で支援する事が難しい場合は複数で支援します。

被災の状況

近所に住んでいるAさんは、木造2階建ての一軒家に一人で住んでいましたが、高齢のためか歩行が困難になり、最近では車椅子での生活を送っていました。

そこに突然、震度5強以上の地震が発生、Aさんの住んでいる家屋も被害を受けました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次にAさん宅を訪問し、**安否確認を行います。**
- 2 Aさんは無事でしたが、家屋の被害を発見しました。
ただちにAさんに**避難するよう呼びかけます。**

- 3 Aさんは一人では歩くことができません。
そこで、**複数の支援者が協力し、**
Aさんを車椅子やリアカー等に寄せ、
一緒に避難所まで行きました。





視覚障がいの方の避難の場合には

➔ 支援者と手を取りあい、一緒に避難所に向かいます。

被災の状況

Bさんは視覚の障がいを持っていました。普段の生活に大きな支障はなく、2階建てのアパートの1階に一人で住んでいました。

そこに突然、震度5強以上の地震が発生、Bさんの住んでいるアパートも被害を受けました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次に、Bさん宅を訪問し、**安否確認**を行います。
- 2 Bさんは無事でしたが、家屋の被害を発見しました。
ただちにBさんに**避難**するよう呼びかけます。
- 3 ところが道路にガレキが散乱し、Bさん一人では避難ができません。
そこで、**支援者一人がBさんの手を取り、一緒に避難所に向かいました。**





聴覚障がいの方の避難の場合には

➔ 支援者と手を取りあい、一緒に避難所に向かいます。

被災の状況

Cさんは聴覚の障がいを持っていました。日常生活に支障はなく、木造平屋の一軒家に一人で住んでいました。

そこに突然、震度5強以上の地震が発生、Cさんの住んでいる家も被害を受けました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次に、Cさん宅を訪問し、**安否確認**を行います。
- 2 Cさんは無事でしたが、家屋の被害を発見しました。
ただちにCさんに**避難**するよう伝えます。
- 3 支援者が**身振り手振り**や**筆記**で伝えたところ、Cさんは状況を理解しました。
そこで、支援者が**Cさんの手**をとり、**一緒に避難所**に向かいました。





ご高齢の方の避難の場合には

➔ 支援者が一緒に避難所に向かいます。

被災の状況

Dさんは木造の一軒家に住んでいます。最近、高齡のため、歩くことに不安を感じていました。

そこに突然、震度5強以上の地震が発生、Dさんの住んでいる家も被害を受けました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次に、Dさん宅を訪問し、**安否確認を行います。**
- 2 Dさんは無事でしたが、家屋の被害を発見しました。
ただちにDさんに**避難するよう伝えます。**
- 3 Dさんはかろうじて歩けましたが、道路にはガレキが散乱し、一人では歩けません。
そこで、**支援者がDさんに付き添い、一緒に避難所に向かいました。**



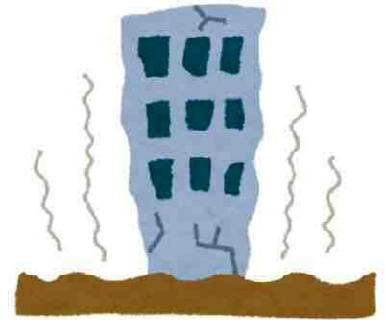


高層住宅に居住する方の避難は

➡ 複数の支援者で階下まで下ろし、避難所に向かいます。

被災の状況

Eさんはマンションで一人暮らしをしていました。
そこに突然、震度5強以上の地震が発生、
Eさんの住んでいるマンションも建物の損傷や
エレベーターの停止などの被害を受けました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次に、Eさん宅を訪問し、安否確認を行います。
- 2 Eさんは無事でしたが、エレベーターが止まっていて、
一人では避難ができません。
- 3 そこで、マンション内の住民が協力して、
Eさんをマンションの階下まで担ぎ
下ろし、一緒に避難所に向かいました。





家やご自身に被害のない方の場合

➔ 訪問により安全を確認し、自宅待機を促します。

被災の状況

Fさんは一人暮らしのご高齢の方です。日頃から何かあったときの事を考え、飲み水の用意や食材を多めに買っておくなどしていました。

そこに突然、震度5強以上の地震が発生、Fさんの住んでいる家も大きく揺れました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次に、Fさん宅を訪問し、**安否確認を行います。**
- 2 Fさんは無事でした。また家屋の被害もないようです。
- 3 Fさんに避難所に行くかどうかの相談をしたところ、飲料水や食料も十分にあり、ご自宅に留まることを希望しました。
そこで、Fさんには**緊急時の連絡先を渡し、後日また訪問することを伝えました。**





安否不明の要援護者の確認を

➔ できるだけ多くの人たちで力を合わせます。

被災の状況

ある時、大地震が発生し、多数の建物が倒壊したため、多くの方が近くの避難所に向かいました。

避難者は体育館に集まり、ご近所同士が顔を合わせたとき、何人かの要援護者の姿が見えないということに気づきました。



支援の方法

1 避難所で要援護者リストを確認します。

リストを読み上げ、要援護者がいるかどうか確認したところ、**何人かの要援護者の顔が見えません。**

支援者は分担して要援護者宅を訪問することにしました。

2 ところが訪問するには人手が足りません。そこで、**避難所にいる人たちに訪問の手伝いをしてもらおうよう呼びかけます。**

3 **多くの人たちの協力で、何人かの要援護者を無事に避難所に連れて来ることができました。**



津波編

支援にあたっての注意事項

- 平常時から**津波ハザードマップを確認**し、地域の安全な場所を把握しておきましょう。
- 津波は比較的小さな地震でも発生する場合があります。地震の時には正確な情報収集に努めましょう。
- 津波警報が発令された時には、速やかにご自身やご家族の**避難を開始**してください。
- **津波避難施設や3階以上の堅牢な建物**に避難しましょう。
- 津波によっては、到達までに時間的な余裕がある場合があります。**津波の到達時刻に注意**して、要援護者の支援を検討してください。
- 安否確認や避難支援の方法は、事前に要援護者と話し合っておきましょう。





歩行困難な方を津波から守る場合

➡ 支援者が手を引き、津波避難施設まで向かいます。

被災の状況

Gさんは2階建てアパートの1階で一人暮らしをするご高齢の方で、最近が高齢のためか歩行が困難になってきました。

そこに突然、震度5強以上の地震が発生、Gさんの住んでいる地域に**津波警報が発表**されました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次に、家族全員で津波避難施設への移動を開始します。
- 2 気象庁のホームページやテレビからの情報で、津波の到達まで、まだ時間があることがわかりました。そこで避難の途中で**Gさん宅を訪問し、ただちに避難するよう伝えます。**
- 3 ところがGさんは混乱してしまい、また歩行も困難な様子でした。そこで支援者が**Gさんの手を引き、一緒に津波避難施設に向かいました。**





堅牢な建物の上階に避難する場合

➡ 津波の情報を伝え、上の階への避難を促します。

被災の状況

Hさんは、4階建て鉄筋コンクリートのマンションの1階に一人で住んでいました。

そこに突然、震度5強以上の地震が発生、Hさんの住んでいる地域に**津波警報が発表**されました。



支援の方法

- 1 まず、支援者ご自身とご家族の安全を確保します。
次に、家族全員で安全な場所への移動を開始します。
- 2 気象庁のホームページやテレビからの情報で、津波の到達までまだ時間があることがわかったため、避難の途中で、1階に住む**Hさん宅を訪問することにした**。
- 3 Hさんは状況を理解しました。また、階段を上ることも、かろうじてできるとのことでした。そこでHさんには**マンションの3階以上に避難するよう伝えました**。



状況に応じた支援の例

洪水編

支援にあたっての注意事項

- 平常時から**洪水ハザードマップ**を確認し、地域の危険な場所や安全な場所を把握しておきましょう。
- テレビ、ラジオ、メールニュースかわさき、インターネット等、**様々な手段**で気象情報、災害情報を入手するようにしましょう。
- 周辺の状態に注意し、**可能な範囲**で活動します。特に要援護者の救出・救助が必要な場合には、無理せず消防、警察に連絡してください。
- 避難所に行くことが困難な場合、建物の2階以上に移動する**垂直避難**も検討してください。
- 安否確認や避難支援の方法は、事前に要援護者と話し合っておきましょう。





歩行困難な方を洪水から守る場合

➡ 支援者が避難所まで一緒に向かいます。

被災の状況

Iさんは、木造平屋の一戸建てに一人で住んでいましたが、高齢のためか歩行が困難になり、最近では車椅子での生活を送っていました。



大雨が長く続いたある日、Iさんのいる地域に**洪水警報による避難準備情報が発令**されました。

支援の方法

- 1 まず、支援者ご自宅の周辺の安全を確認します。
続いて、**付近の避難所の開設状況**をメールニュースかわさきや、川崎市ホームページで確認します。
- 2 Iさんに**電話連絡をしたところ**、Iさんは大変不安に感じている様子でした。そこで**Iさん宅を訪問すること**にしました。
- 3 Iさん宅付近は冠水もなく、移動が可能な状況でした。そこでIさんと**一緒に避難所**に向かいました。





浸水に備え建物の上階に避難する

➡ 状況に応じて、避難方法を変更する場合があります。

被災の状況

Jさんは、鉄筋コンクリート4階建てのマンションの1階に一人で住んでいる方でした。

大雨が長く続いたある日、Jさんのいる地域に**洪水警報による避難勧告が発令**されました。



支援の方法

- ① 自宅周辺の状況を確認したところ、所々浸水が見られました。ただちに家族全員で安全な場所への移動を開始します。
- ② 避難の途中でJさん宅を訪問し、一緒に避難所に向かうことにしました。
- ③ ところが急に雨脚が強まり、避難所に行くことが困難な状況になりました。そこでJさんの住む**マンションの2階以上**に、一時的に避難することにしました。



土砂災害編

支援にあたっての注意事項

- 平常時から**土砂災害ハザードマップ**を確認し、地域の危険な場所や安全な場所を把握しておきましょう。
- テレビ、ラジオ、メールニュースかわさき、インターネット等、**様々な手段**で気象情報、災害情報を入手するようにしましょう。
- 周辺の状況に注意し、**可能な範囲**で活動します。
特に要援護者の救出・救助が必要な場合には、無理せず消防、警察に連絡してください。
- 避難所に行くことが困難な場合、**建物の2階以上で崖から遠い部屋への避難（垂直避難）**も検討してください。
- 安否確認や避難支援の方法は、事前に要援護者と話し合っておきましょう。





避難準備情報が発令された場合には

➔ 支援者数人で協力して、避難を支援します。

被災の状況

Kさんは、木造アパートの1階に一人で住んでいましたが、最近が高齢のためか歩行が困難になっていました。

大雨が長く続いたある日のこと、Kさんの住んでいる地域に**土砂災害警戒情報に伴う、避難準備情報が発令**されました。



支援の方法

- 1 防災行政無線やメールニュースかわさき、ハザードマップを活用し、**ご自宅周辺の状況や避難所の開設状況、今後の気象状況の見込み等**を入手します。
- 2 Kさんに電話連絡し、状況を伝えます。**Kさんの家は土砂災害警戒区域内にあり、Kさんも不安な様子**です。
- 3 このため、**支援者数人で訪問し、協力してKさんを車椅子に乗せ、避難所に向かいました。**





支援の連絡を受けて安心してすることも

➡ 要援護者への積極的な声かけをお願いします。

被災の状況

Lさんは、鉄筋コンクリート造の2階建ての家に住んでいました。高齢でしたが、日常生活に大きな支障はありませんでした。

大雨が長く続いたある日のこと、Lさんの住んでいる地域に**避難準備情報が発令**されました。



支援の方法

- 1 防災行政無線やメールニュースかわさき、ハザードマップを活用し、**ご自宅周辺の状況や避難所の開設状況、今後の気象状況の見込み等**を入手します。
- 2 Lさんに電話連絡します。Lさんの家は、**土砂災害警戒区域には入っておらず、周辺には崖や川もないことから、自宅待機を促します。**
- 3 Lさんには今後天候が悪化し**避難勧告が発令された場合にはすぐ避難できるよう準備**をお願いし、また、**不安を感じたら連絡するよう伝えました。**



ご存知ですか？避難情報のこと

避難準備情報

避難準備情報とは、避難がすぐにできない**災害時要援護者**に対して、**早めの避難を求める**ものです。

同時に、全ての住民に避難の準備を呼び掛けるものです。



避難勧告

避難勧告とは、**災害発生が予想される地域の住民に避難を勧める**ものです。対象の地域の方が避難を開始します。



避難指示

避難指示とは、避難勧告より強く避難を求めるものです。**危険が迫っていますので、ただちに避難してください。**



危険

MEMO



KAWASAKI CITY

川崎市

災害時要援護者避難支援制度
災害ごとの支援のポイント

平成27年（2015年）3月発行

【企画・編集】川崎市総務局危機管理室
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044(200)2795 ファックス 044(200)3972
ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/>